

映画『こどもかいぎ』を見て

先日、ある保育園に1年間密着をしたドキュメンタリー映画に出会いました。この園の取り組みの一つに、年長の『こどもかいぎ』というものがあります。5～6人のグループになり会議が開かれるのですが、保育士はファシリテーターとして参加します。「どうして雨が降るの?」「困っていることはなに?」「どうしてケンカをするの?」…など、話し合う内容は何でもOK! 議題は子ども達で自由に決めます。また、【何でも発言してよい、お友達の話していることは聞く、答えはなくていい】ということが、この会議のルールです。

映画での様子を少しご紹介します。(ネタバレになっちゃいますね…) この園では週に1回、年長が0歳児のお世話をする“お手伝い保育”があります。この経験を通して感じたどうして生まれてきたの?という疑問について話し合うことになりました。「みんなに会いたくて生まれてきた!」「僕は、人類を増やしたいと思って生まれてきたんだよ」他にも、お腹の中の記憶を話す子、東京ドームシティから生まれた、と教えてくれる子も…。さまざまな意見が飛び交う中、ある一人の子が「どうして人は死んじゃうの?」という疑問を投げかけました。

「心臓が止まること」と言語化する子もいれば、死というものについて、まだあまりピンと来ていない様子の子もいて反応はさまざまでした。

後日子ども達は死ぬまでにやりたいことについて会議をしました。

「1杯だけ味噌ラーメンを食べたいなあ…」とつぶやく子、「地球を全部楽しみたい!」と壮大な夢を語ってくれる子もいます。

こうして、子ども達の発言、発想からさまざまな会議がおこなわれています。

もちろん、子ども達の会議なのでスムーズにはいきません。

この取り組みが始まった頃は、飽きてしまって遊び始める子、友達の話の話を遮って話し出す子、皆の前で発言するのが苦手な子もいました。

それでも、この『こどもかいぎ』を続けていくことで、相手の話に耳を傾ける姿や、誰かの意見に「おもしろいね!」と共感したり、「私はこう思う」と自分の言葉で伝える姿が増えていきました。自分の『おもい』を言葉で伝えることの楽しさ、話を聞いてもらうことや共感してもらうことの喜びを感じている子どもは、相手の気持ちに寄り添って関わる事が出来るようになります。ある年長の子は、友達とケンカをして泣いている年中の話を親身になって聞き、「嫌だったことを伝えてみようよ。それでもダメだったら、先生に言ったらいいんだよ。もし先生に言うのが嫌だったら僕達に話してね!」という言葉をかけていました。

子ども達はこの先の人生で「この人とは気が合う!」「この人とは合わない」「自分の考えとは違う」とさまざまな人と出会うことでしょう。

子どもが初めて出会う社会の場である、園生活でも既に感じていると思います。

以前にも載せましたが、園では【サークルタイム】という【こどもかいぎ】のような、皆の前で発表する時間を設けています。

子ども達が安心して自分の『おもい』を伝え、誰かと一緒に「どうしたらいいか」と考えられる場所を、これからも提供していきます。

身近な大人である私達は、子どもの発信にしっかりと耳を傾け、受容して、心の根っこを育てていきましょう。

(真琴)